

ふるさとの歩み

第10回

～成田市をつくった町と村～

「ふるさとの歩み」では、「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」の刊行に合わせ、現在の成田市を構成する旧町村の歴史を紹介します。同書は、市立図書館と市役所1階行政資料室で頒布(価格=2,500円)しています。

※「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」についてくわしくは市立図書館(☎27-4646)へ。

*写真は「成田の地名と歴史—大字別地域の事典」から

大栄町①

大須賀村・昭栄村(本大須賀村)の歩み

村の設立

大須賀村は伊能村・奈土村・柴田村・堀籠村・村田村・所村・桜田村・南敷村・馬乗里村・横山村の10カ村が、本大須賀村は吉岡村・津富浦村・中野村・稲荷山村・松子村・臼作村・一坪田村・前林村・新田村・久井崎村の10カ村が合併することで、それぞれ明治22(1889)年に成立しました。本大須賀村は昭和17(1942)年に昭栄村と改名しています。

村の産業

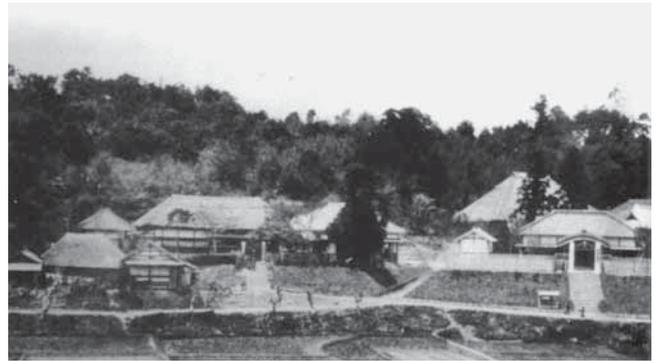
大須賀村・本大須賀村とも主な産業は農業で、その中心は米作であり、副業として養蚕・養鶏が盛んでした。「大須賀村奈土養蚕組合」は大正5(1916)年、県から香取郡内の優良団体として表彰されています。また、本大須賀村では大正期に十余三の開墾が進んで麦の作付面積が増加するなど、農業の生産高が順調に上昇しました。

農村発展の未来に向けて

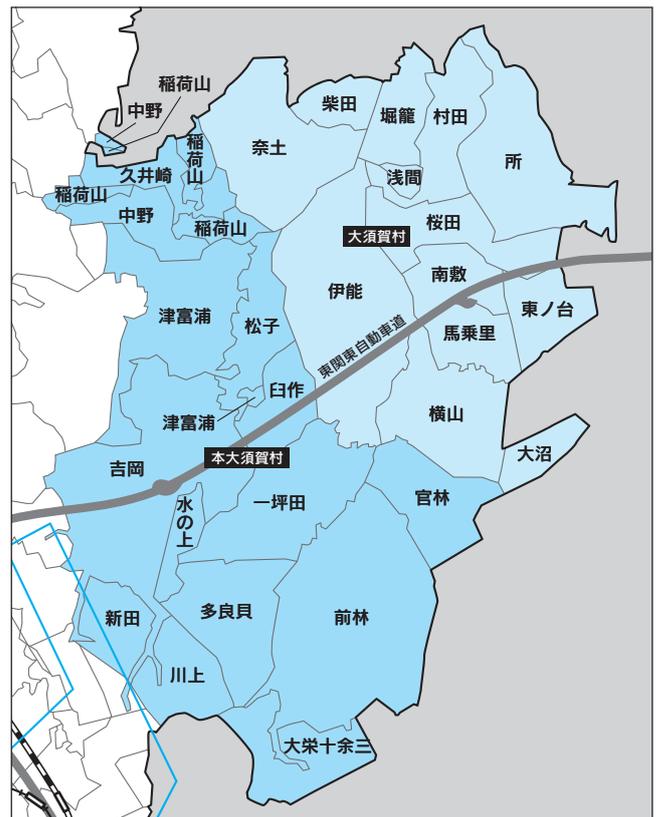
昭和11(1936)年、不況に陥った農村の自力更生策の一つとして、本大須賀村の久井崎地区に日本青年館農村修練場が建設されています。これは、大日本連合青年団によって作られた実習農場で、入場資格は1年以上の農業生活体験や相当の学力素養などを有する、18～25歳の男子とされており、その設立の目的は、各地の青年団の中堅として活躍する人材の育成でした。修練場では、1年間の修練期間を通じて農業技術の向上に向けたさまざまな研究や実習が行われ、農業の盛んな大栄の地で、日本の農業の未来を担う若者たちが研鑽に励んでいました。



昭和20(1945)年前後の昭栄村役場



大正3(1914)年に設立された大須賀農学校。右隣は大須賀村役場



編集後記

松竹三月大歌舞伎・夜の部で行われる「佐倉義民伝」の成功を祈願する、「宗吾霊の出開帳」の取材で3月1日、松竹演舞場に行ってきました。法要の後、木内宗吾役の松本幸四郎さんが、「うなりくん」に、「寒い日も暑い日も、成田のPRをしていると聞いて感動しました。日本のため、成田のために、お互い元気と癒しを与えられるよう頑張りましょう」と声を掛けていました。わたしたちもうなりくんに負けないよう、成田を元気にできる広報紙作りに励んでいきたいと思えます。



平成24年3月15日号 No.1215

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>